

「ポルカ・ドット・アコーディオン」は、北欧伝統音楽からフランスのミュゼットまで様々なスタイルを織り交ぜながら、アコーディオン音楽の楽しさと更なる可能性を掘り起こしてゆく。両者の異なる個性や技術の相乗が、互いのソロ演奏では見えにくかった、あるいは自分たちも気づいてなかった新しい表現世界を次から次へと照らしてゆく様子は、なんともスリリングである。そこで用いられているのは、たった二つのアコーディオンにすぎない。しかし、我々に聴こえるのは、森の木漏れ日から街角の雑踏までを夢想させるカラフルなシンフォニーなのである。
 (音楽評論家・松山晋也)



トゥーリキ・バートシク Tuulikki Bartosik

エストニア北部ラクヴェレで生まれたトゥーリキには、母親の出身地である南エストニアの森や湿地帯と、父親の出身地でカモメの鳴き声と潮の香り漂う北エストニアという二つの故郷があった。特に母親の祖母は方言であるヴォル語を話し、歌も良く歌ってくれたという。彼女が最初にアコーディオンと出会ったのは8歳の時で、それは父親が子供の頃に演奏していたアコーディオンだった。それ以来彼女は、33年間アコーディオンを演奏し続けている。祖母の思い出と、ミュージシャンだった父親の存在が、彼女にミュージシャンとしての道を進む最初のきっかけを与えた。

10代の頃にエストニアのフォーク・ミュージックに興味を持ち始め、1994年にスコットランドを訪れた時、その自然と豊かな伝統に恋してしまい、エストニアやスコットランドの伝統音楽を演奏するようになる。エストニアでクラシック・アコーディオンを学んだ後、さらに伝統音楽を学ぶために、ヘルシンキのシベリウス音楽院(フィンランド)に進学。さらにストックホルム音楽大学(スウェーデン)でも学位を取得。そして2007年にはエストニアに音楽と演劇のアカデミーを自ら設立し、以来10年にわたり後進の育成にも取り組む。現在教育活動をいったん離れ、演奏活動に集中して取り組んでいる。

かとう かなこ Kanako Kato

4歳からアコーディオンをはじめる。小学生のころからテレビやラジオに出演。全日本アコーディオンコンクールに小学生・中学生の部で優勝。高校生の時に総合優勝を果たす。

高校卒業後、フランスへ渡り、オーベルニュー地方のアコーディオン専門学校に留学。300人中50人がアコーディオン奏者という村で2年間を過ごす。在学中に全仏アコーディオン・コンクールの3つの部門で第1位を獲得。フランスの日本人アコーディオン奏者として、大きな話題を呼ぶ。

帰国後、フランスのダンス音楽「ミュゼット」や、「シャンソン」を中心としたアルバムをリリースし、コンサート活動を開始。80歳を超えてもアコーディオンを弾き続けることが目標。



宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

宗次フレンズ 会員募集

会員登録していただいたフレンズ会員様は
一般発売より先行してチケットをご購入頂けます

会員登録・年会費 無料

詳しくは、宗次ホール (052-265-1715) までお問合せ下さい。

交通アクセス
地下鉄栄駅 ⑫ 番出口より東へ徒歩4分



くらしの中にクラシック



名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
 TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
 E-mail info@munetsuguhall.com
 URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター
 営業時間:10:00~16:00
 ※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業